

令和6年度 大阪市立松虫中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
		国語	数学	国語	数学
3年	学校	84	54	50	2.8
	大阪市	—	56	51	4.1
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9
				8.7	12.5
				11.3	

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
		国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3年	学校	91	60.3	49.5	48.5	56.4	53.0	5.0	4.0	11.3	2.6
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	53.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.3
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.4	53.6	5.3	5.0	14.8	5.0
							5.2				6.5

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和6年度 大阪市立松虫中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

<国語>

【成果と課題】

大阪府平均をポイント下回り、特に「思考・判断・表現」の観点において大阪府平均をポイント下回っていた。しかし、「知識・技能」の観点においてはポイント上回り、特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域でポイント上回っていた。

【今後に向けて】

漢字の問題についての苦手意識が強い生徒が多いため、漢字に集中的に取り組むプリントや漢字テスト等を実施し、基礎学力の向上に努める。

<社会>

【成果と課題】

大阪府平均を1.0ポイント下回った。地理的分野、歴史的分野、評価の観点のすべての項目において大阪府平均を下回り、特に地理的分野での差の方が大きかった。問題形式別平均でも全形式で下回ったが、特に短答式に課題が見受けられた。

【今後に向けて】

基本的な知識の習得ができている生徒が少ないので、一問一答形式の問題を取り組む時間を増やして、基礎学力の向上を図る。

<数学>

【成果と課題】

大阪府平均と比べ、0.6ポイント下回った。領域別で見ると、「数と式」では0.2ポイント、「図形」では0.2ポイント下回った。一方で、「関数」では府平均と同ポイント、「データの活用」では0.2ポイント上回った。府平均と比べ下回っているが、苦手分野になりやすい「関数」の領域では同ポイントになっており、デジタル教科書等のICT機器の活用が効果的だったと考える。

観点別で見ると、「思考・判断・表現」の観点では0.1ポイント上回ったが、「知識・技能」の観点では0.7ポイント下回っており、基本的な計算力等が課題である。

【今後に向けて】

デジタル教科書等のICT機器の活用は継続して行い、定期テストでも計算問題を出題することで計算問題に対する意識を高め学力の向上をめざす。

<理科>

【成果と課題】

全体としては、府の平均点より4ポイント高かった。しかしながら、地学領域の得点が平均より0.2ポイント、記述式問題の得点が平均より0.7ポイント高かっただけなので、今後の課題とする。

【今後に向けて】

定期テストにおいても記述式の問題に対して苦手意識が高いので日常の授業でもしっかりと記述練習を取り入れていきたいと考える。

<英語>

【成果と課題】

大阪府平均と比べ、0.6ポイント下回った。領域別で見ると、「聞くこと」で1.1ポイント、「書くこと」で0.3ポイント下回ったが、「読むこと」では0.7ポイント上回った。昨年度に比べ、どの観点も府平均に近づけることができたのは、毎時間の帯活動に取り入れた短文読解と3分間ライティングが効果的だったと考えられる。

【今後に向けて】

リスニング問題を苦手とする生徒が多いため、ICT機器をより活用し英語の音に触れる機会を増やすとともに、話す・書く・読む力をつけるために日々の授業の中で継続して取り組み4技能の向上を目指す。